



## バスラ日誌（3月17日）

1 第7機甲旅団の夕会議において重要な話があった。「BASRAH Rural South BG からパトロールが予定した経路を通れず立ち往生したとの報告を受け、旅団長は直ちに現在の状況を確認させるとともに、担当であるG-3のスタッフにどの様になっているかを確認した。」というもので、詳しい話は（正確性に欠けるので）割愛するが、旅団司令部とBGの間に、情報伝達の齟齬が生じていたようであった。旅団長が「これは極めて（“very” を3回言われた）重要なことであるので、しっかり処置しておくように。」と言われて会議は終わった。終了直後、副幕僚長（幕僚長不在のため）がスタッフに全員残るよう伝達し、以下のことをスタッフに徹底した。

「最近、部隊交代（5月上旬）が近づいてきて、このようなことが散見される。もしこれが、IEDの情報だったら兵士の命が失われていたかもしれない。たった1分の遅れによって、100時間かけてやったものを無駄になり、たった1分の遅れによって、彼の命が失われ、永遠に帰ってこないという取り返しのつかないことになるのだ。旅団のスタッフは、BGのために存在する。BGの役に立たないのなら、我々がいる必要はないのだ。休みたかったら、部隊交代が終わって帰ってから休め。それができないなら、ここから去れ。あらゆる手段を活用して連携に努めよ。計画と実行の同調をはかれ。最後までしっかりと任務を遂行して、帰るのだ。」

言葉を荒げることはなかったが、かなり強い口調でスタッフ達を指導していた。スタッフ達も黙って聞いていた。振り返って、我々はどうであろう。私も初級幹部の頃から部下隊員のためと教えられてきて、それが当然とは思っているが、実際自分は実行できているのだろうか。自分本位で仕事をしていないだろうか。彼らのおかげで（兵士達に影響がなくて本当に良かったが）、自分のことを振り返る良い機会を得ることができた。

2 第7機甲旅団の教訓は、我々にとっても耳の痛い話である。LOとして本隊のためになることであれば、身命を賭して任務にあたる所存である。（バスラには耐弾施設が無い為全員の危険は想定内である。）

3 本日、快晴。バスラ4名、極めて健康。